

戦争の記憶を風化させないために

■問合せ…共生まちづくり課(☎025-520-5681)

「みらいは明るい!!平和の灯」(献花・献水慰霊式)

柿崎中学校 3年 吉崎 智成

8月6日に広島被爆者援護会が主催している献花・献水慰霊式に参加してきました。

原爆投下から77年という長い年月が経ち、年々被爆者の方が減少していく中で、被爆者との交流は貴重な体験となりました。その中で、戦争は当たり前前の日常をあっという間に消し去るという言葉聞いて、同じ過ちを繰り返してはいけないと強く思うきっかけとなりました。

献花・献水慰霊式で感じたたくさんのことを身近な人から伝え、平和の輪を広げていきたいです。

「平和への願い」(灯ろう流し)

城東中学校 3年 小松 槍太

原爆投下時、人々が水を求めて集まったのがこの川だったということを知り、胸が痛くなりました。

私たちは戦争を知らないけれど、多くの人々の命が戦争により奪われたのだということを忘れずに、伝えていかなければならないと感じました。

平和への願いを乗せてたくさんの灯ろうが流れている様子を見て、被爆者の魂を慰めるとともに、平和への思いが改めて強くなりました。

「原爆の恐ろしさと被害」(広島平和記念資料館)

浦川原中学校 3年 滝沢 健也

資料館には、原子爆弾によって被害を受けた様子の絵や、実際の写真、物が展示されていました。

当時の様子が分かりやすい絵や写真などが多く、原爆が及ぼした被害がどれほど大きかったのか、とても伝わりやすい場所でした。原爆が投下されたときを体験していない自分たちも、展示物を見るだけでとても心が痛くなり、改めて戦争はあってはならないと強く感じました。

「祈り続ける世界平和」(平和記念公園)

春日中学校 3年 田原 衣咲

原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念して開設された平和記念公園。多くの慰霊碑やモニュメントを見学し、被爆者の平和への強い想いを感じることができました。

原爆によって傷ついたものは、絶対に忘れてはいけない負の遺産です。8月6日の惨禍を二度と繰り返さないためには、平和の尊さと戦争の悲惨さを日本だけでなく、世界へ伝えていくことが大切だと思います。

「手記に記された思い」(呉市海事歴史科学館)

清里中学校 3年 坂田 咲

呉市は戦争で大きな被害を受けた地域の一つです。資料館には、戦争時の生活状況や戦艦の模型など多くの展示があり、特に印象に残ったのは乗員の手記です。手記の中には、家族と二度と会えないのではないかと、という恐怖や不安が書かれているものがありました。

不安を抱えながら戦争に参加していた隊員たちのことを考えると、戦争は心にも体にも被害を与えることで繰り返してはいけないことだと改めて感じました。

「平和への願いをカタチに」(原爆の子の像(献鶴))

上越教育大学附属中学校 3年 星野 聖菜

2歳で被爆し、12歳で亡くなった佐々木禎子さんは、闘病生活の中で「生きたい」という思いで生前多くの鶴を折っていました。

禎子さんの死をきっかけに、全国からの募金で「原爆の子の像」が建てられ、多くの折り鶴が捧げられています。一人一人の平和を祈る気持ちが込められた折り鶴が大きな形となり、永遠の平和につながる架け橋となってほしいと思いました。

「想いをつなげるチョークの文字」(袋町小学校平和資料館)

吉川中学校 3年 角張 愛

袋町小学校平和資料館には、原爆の被害に遭った校舎が一部残されていました。壁一面に家族や友人、自分の生徒を探す言葉が書かれているのを見て、あの日どれだけ多くの方がどれだけ想いで大切な人を探していたのかと考えると、胸が痛みました。

私たちはあの日の出来事や、被爆した人々の想いを伝え、二度とこんなことが起こらない平和な世界を作らなければならないんだと強く思いました。

「平和への思いを世界に」(平和記念式典)

八千浦中学校 3年 保田 真里亜

77年前の8月6日、広島に投下された原子爆弾。この8月6日に行われた式典に参列しました。

命の尊さや戦争の恐ろしさ、77年前に起こったことが一生消えないという事実を改めて感じました。

戦争のない平和な世界を作っていくためには、77年前の阿鼻叫喚の光景を多くの人に知ってもらい、伝えていくことが大切だと思いました。

※()は訪問先



よしざきともなり 吉崎智成さん こまつそうた 小松槍太さん たきざわけんや 滝沢健也さん たはらいさき 田原衣咲さん さかたさき 坂田咲さん ほしのせな 星野聖菜さん かくばりあい 角張愛さん やすだまりあ 保田真里亜さん



8月6日、77回目の「原爆の日」を迎えた広島には、世界各国から原爆死没者への追悼とともに核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う人々が集いました。

当市からも次代を担う中学生の代表として8人の生徒が平和記念式典に参列し、原爆の犠牲となられた多くの御霊(みたま)に対し、哀悼の意を捧げました。

市ホームページ

戦争体験の伝承

年々薄らいでいく戦争の記憶を後世に残し、語り継ぐため、市内在住の戦争体験者の証言動画を作成しています。

YouTubeの上越市公式チャンネルでぜひご覧ください。市公式YouTube



証言者の一人 新保 啓吉さん